

## 2002年の世界と日本の年平均地上気温の平年差について

2002年の世界の年平均地上気温の平年差\*は+0.54で、統計を開始した1880年以降では1998年に次いで2番目に高い値となりました。世界の年平均地上気温は、1980年代中頃から依然として高い状態が続いています（図1参照）。

また、2002年の日本の年平均地上気温の平年差\*は+0.53で、統計を開始した1898年以降では5番目に高い値となりました。日本の年平均地上気温は、2番目に高い値を記録した1998年の後、1999～2001年と3年連続して下がっていましたが、2002年に再び高くなり、依然として1990年代はじめからの高い状態は続いています（図2参照）。

これらの要因としては、二酸化炭素などの増加に伴う地球温暖化、数年～数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動などが考えられます。

世界の年平均地上気温の平年差は、気象庁に入電した月気候気象通報（CLIMAT報）のすべての地点（約1200地点）のデータを使用して求めています。また、日本の年平均地上気温の平年差は、長期間にわたって観測を継続している気象観測所の中から、都市化による影響が少なく、特定の地域に偏らないように選定された17地点のデータを使用して求めています。

\*平年差とは平均気温から平年値を差し引いた値（平年偏差ともいう）です。平年値としては、1971～2000年の30年平均値を使用しています。

（参考）

世界の年平均地上気温の平年差が大きかった年（1位～8位）

1998年（+0.64） 2002年（+0.54） 1990年（+0.43） 2001年（+0.43）  
1999年（+0.40） 1995年（+0.35） 1988年（+0.28） 1997年（+0.28）

日本の年平均地上気温の平年差が大きかった年（1位～8位）

1990年（+1.04） 1998年（+0.98） 1994年（+0.82） 1999年（+0.76）  
2002年（+0.53） 2000年（+0.52） 1979年（+0.50） 1991年（+0.49）

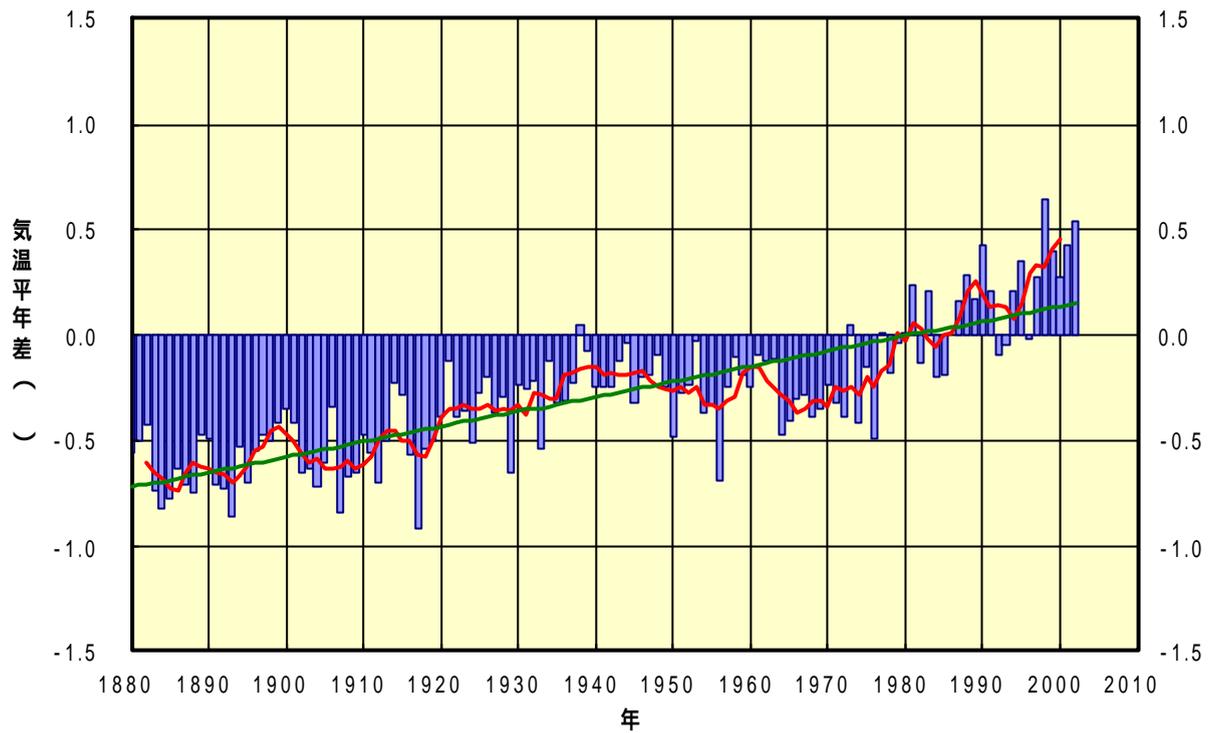


図1 世界の年平均地上気温の平年差の経年変化（1880年～2002年）  
棒グラフは各年の値、赤線は各年の値の5年移動平均を、緑線は長期変化傾向を示す。

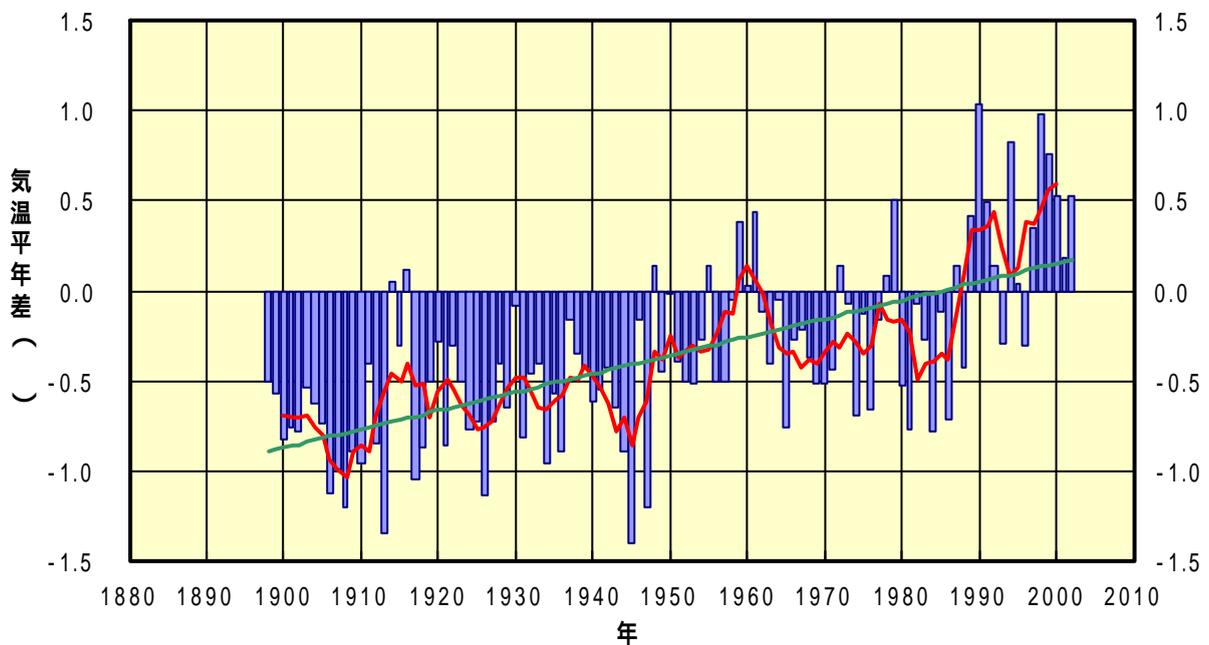


図2 日本の年平均地上気温の平年差の経年変化（1898年～2002年）  
棒グラフは各年の値、赤線は各年の値の5年移動平均を、緑線は長期変化傾向を示す。